

ハーブソン Hokkaido 2013

結果・速報版



北海道爬虫両棲類研究会

はじめに

2013年4月28日～5月7日(第一期)及び、6月30日～7月9日(第二期)にかけて、北海道爬虫両棲類研究会主催の「ハーブソン Hokkaido 2013」が開催され、事故なく無事に終了したことを嬉しく思います。また、多くの方々から様々な地域での活動報告を頂いたことに大変感謝しております。

本イベントの詳細な報告、及び結果等については、2014年2月に発行を予定している「北海道爬虫両棲類研究報告 Vol.2」内にて、改めて報告書を作成し、公表したいと考えております。様々な考察や、反省点などを含め、書き上げたいと思います。

北海道爬虫両棲類研究会

会長 徳田龍弘

調査の結果について

参加チーム数:36 チーム

ばいかだ、チームやまはな、まろん、自然ウォッチングセンター、沼人(ぬまんちゅ)、東海大学札幌校舎、チーム ポリプテルス、jintarou、とかちへいや生物部、チーム ゴンベ、おとなも遊び隊!、釧路一晩隊、チームぶち助、滝野の森生き物調査隊、チーム生環 OB 虫屋、アマアマアママ・アマガエル、おぎちゃん、チームカエルヤ、ゆゆた調査隊、おむかいの家族、チーム MOMO、手金、チームばにら、帯広の森・はぐくーむ、きたひろの森、野槌特捜隊、のっぽろ調査隊、森のいきもの大捜査隊!、チーム malma、北海道希少生物調査会 恵庭担当班、北海道希少生物調査会 札幌担当班、北海道希少生物調査会 石狩担当班、北海道希少生物調査会 室蘭担当班、てふみん、チームしまえび

参加者数:218 名

調査されたエリア:72 エリア(期間外の情報を頂いたエリアが他に 3)

振興局別(エリア詳細は別添ハープソン Hokkaido 地区マップ参照)

石狩振興局:21 エリア 渡島総合振興局:10 エリア 桧山振興局:6 エリア
後志総合振興局:4 エリア 空知総合振興局:5 エリア
上川総合振興局:1 エリア 留萌振興局:1 エリア 宗谷総合振興局:3 エリア
オホーツク総合振興局:0 エリア 胆振総合振興局:6 エリア(期間外+1)
日高振興局:0 エリア 十勝総合振興局:6 エリア
釧路総合振興局:7 エリア(期間外+2) 根室振興局:2 エリア

期間内調査で確認された種:18 種

ヒガシニホントカゲ・ニホンカナヘビ・コモチカナヘビ・ジムグリ
アオダイショウ・シマヘビ・シロマダラ・ニホンマムシ・クサガメ
ミシシippアカミミガメ・キタサンショウウオ・エゾサンショウウオ
ニホンアマガエル・エゾアカガエル・アズマヒキガエル・ウシガエル
ツチガエル・トノサマガエル

頂いた生息データ数:

正式記録(確認データあり): 246, 参考記録(確認データなし): 34
その他の期間記録(確認データあり): 11, 区域不明: 1

各詳細データについて

速報データは以上です。細かな種ごとの分布や検討などについては、2014年2月発行予定の「北海道爬虫両棲類研究報告 Vol.2」内にて行います。

受賞等について

今回の「ハーブソン Hokkaido 2013」では、一生懸命調査を下された方々に4つの賞を検討いたしました。各受賞チームには賞状と、当会からの粗品を差し上げる予定です。

最優秀賞

ハーブソン期間中に最も多くの種を、正式記録として報告して下さったチームです

受賞者： **野槌特捜隊** (13種)

2位： チーム生環 OB 虫屋 (11種)

3位： ばいかだ (10種)

ばいかだ賞(最多エリア調査賞)

ハーブソン期間中に最も多くのエリアを、調査して下さったチームです

受賞者： **野槌特捜隊** (12エリア)

2位： 自然ウォッチングセンター (11エリア)

3位： チーム生環 OB 虫屋 (10エリア)・ばいかだ (10エリア)

Booby5賞

種数が最下位から5番目の方、1チームに授与。同率で6チームありましたが、公平に抽選を行い1チームを決定しました。

(抽選の様子の動画：<http://www.youtube.com/watch?v=eqAUEX3mex4>)

受賞者： **チームしまえび** (1種)

次点： 帯広の森はぐくむ ・ jintarou ・ チームカエルヤ ・ 北海道希少生物調査会 石狩担当班 ・ 北海道希少生物調査会 室蘭担当班 (全て1種)

中島宏章賞(写真賞)

調査写真から、特に写真賞に応募のあったものを、野生動物写真家の中島宏章氏 (<http://hirofoto.com/>) に選定していただきました。

これらの写真(応募のあった写真 11 点)については、2014 年 1 月に札幌市で予定されている、北海道爬虫両棲類研究会大会にて飾る予定です(2L 版)

受賞者: **チーム MOMO** (写真題: **空とキミとのあいだに**)

次点: **おとなも遊び隊!** (写真題: **見せて!**)



空とキミとのあいだに



見せて!

中島さんのコメント: 人様の写真を僕なんかが見させて頂き、恐縮です。でも、選ばせていただく以上、まじめに見させていただきました。まじめに、そして独断で、優勝と次点を決めさせていただきました!

空とキミとのあいだに (受賞)

まず題名が良いなと思いました。水面が反射してしまうのを自分の影で防いで卵を撮影することは僕もよくやります。でも、このように空も自分も卵も一緒に撮ったことはありませんでした。写真をじーっと見ていると不思議な気持ちになります。下を向いているんだけど、空を見上げている、という。絵的な面白さプラス前向きなイメージを頂ける写真だと思いました。

見せて! (次点)

写真を見た瞬間、笑みがこぼれました。男の子の真剣な眼差しがプラケースの向こうに見えている、という。もう、素晴らしいの一言です。子どもたちの写真を持ってこられたら、僕も弱いです。

なお、各賞につきましては受賞者が2014年1月の研究会大会に参加できる場合は表彰を行いたいと思います。参加できない場合は、賞状及び、粗品をチームの代表者に発送を持って授与としたいと思います。

おわりに

この発行物は速報ですので、簡易な発表になっております。細かな種の分布確認や考察、参加者の感想やハーpsonの今後についてなどを細かく記録したものを、2014年2月発行予定の「北海道爬虫両棲類研究報告 Vol.2」内にて報告する予定です。「ハーpson Hokakido 2013」を実施するにあたり、多くの方々のはげましをいただき、無事に進めていくことができました。事務局の人手不足等にて、皆さまへのお知らせ等が若干遅れたり、不手際もあったと思いますが、無事に終えることができとても安心しています。今後発行する報告書も納得の行くものを作り、北海道の爬虫類・両生類に対して多く人々の関心をひいていけるようなもの、北海道は両生類や爬虫類の調査でみんな頑張っているよ、というものを目指していきたいと思ます。

ハーpsonはデータを蓄積することに意味があります。現在はまだ2回目ということでデータは多くありませんが、昨年に比べて飛躍的にデータの蓄積が進みました。今後も第3回、第4回と回数を重ね、北海道内の爬虫類や両生類の生息マップを広げていきたいと考えております。2014年の「ハーpson Hokkaido」は実施が未定ですが、人的体制が整えば実施もできると思ますので、いろいろな形でご協力くださる方は、是非ご連絡下さい。もし、実施できなくても毎年間隔ではなくても第3回、第4回と行えるための体制づくりをしていきたいと思っています。

皆さまのご協力を得つつ、北海道爬虫両生類研究会では体制を整えて次回以降のハーpsonを迎えたいと思ます。その際には、是非また、皆さまのハーpsonへの参加を期待していきたいと思ます。

今後ともハーpson Hokkaido 及び、北海道爬虫両棲類研究会をよろしく願いいたします。

執筆：徳田龍弘(北海道爬虫両棲類研究会・会長)

北海道爬虫両棲類研究会
北海道札幌市南区定山溪温泉西
2-45-1-306(事務局)
<http://koke-koke.com/>
twitter: @HHS account